



かみのせき 議会だより

2019
10/25

No.148

地域の
人と昔
あそび



令和元年 9 月定例議会

おはじき

議案 令和元年度補正予算他	-----	2~4 ページ
新庁舎の概要	-----	5 ページ
一般質問（4名が町の取り組みを問う）	-----	6~9 ページ
委員会研修報告	-----	9~10 ページ
議会日誌	-----	11 ページ
研修会・お願い・編集後記	-----	12 ページ

議案

9月定例会は、9月17日から26日までの10日間で開催され、令和元年度一般会計・特別会計補正予算10件、条例の改正12件、上関町過疎地域自立促進計画（変更）の策定、上関町教育委員会委員の任命、人権擁護委員の推薦、副町長の選任、平成30年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定、報告3件が上程され、原案のとおり可決・承認された。

一般会計補正予算

◆令和元年度一般会計補正予算
歳入歳出予算の総額に1億3624万2千円を増額し、総額を33億8224万2千円とする。

主な歳入

地方交付税の増額、災害復旧事業費負担金の増額、繰入金の増額、前年度決算繰越金の増額、町債の減額などが主なもの。

主な歳出

各費目での人事異動に伴う人件費の増・減額、各会計への繰出金の増・減額、財政調整基金積立金の増額、新庁舎建設事業費の増額、民生費の基幹系システム改修委託料の増額などが主なもの。

特別会計補正予算

◆それぞれの会計の歳入において前年度決算繰越金の増額および一般会計からの繰入金の増・減額、歳出においては人事異動に伴う人件費の増・減額。

介護保険特別会計では介護給付費準備基金積立金の増額。風力発電事業特別会計では消費税還付金の増額。

条例の一部改正

◆上関町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正

・印鑑登録証明事務処理要領の改正により改正による。

◆次の条例の一部改正は消費税率引き上げに伴って、公共料金

や使用料などの改定を行うため。

・上関町立学校等の施設使用条例の一部改正

・上関町立公民館の使用料条例の一部改正

・上関町総合文化センターの設置及び管理に関する条例の一部改正

・上関町民グラウンド等の設置及び管理に関する条例の一部改正

・上関町民体育館の設置及び管理運営に関する条例の一部改正

・ほのほの活性化センター設置及び管理に関する条例の一部改正

・上関町漁港管理条例の一部改正

・上関町八島く上関間航路運行条例の一部改正

・上関町海岸保全区域内における工事等の規制に関する条例の一部改正

・上関町簡易水道給水条例の一部改正

・上関町民体育館の設置及び管理に関する条例の一部改正

・ほのほの活性化センター設置及び管理に関する条例の一部改正

◆上関町消防団条例の一部改正
・成年後見人制度の利用の促進に関する法律の改正による。

その他

◆上関町過疎地域自立促進計画（変更）の策定

・惣津く観音線道路の改良が14メートル延長となるため。

◆上関町教育委員会委員の任命
・教育委員会委員である「窪田淳一氏」の任期が本年9月30日をもって満了となるため、引き続き「窪田淳一氏」を任命する。



窪田淳一氏

◆人権擁護委員の推薦

・人権擁護委員である「佐原正文氏」の任期が本年12月31日をもって満了となるため、引き続き「佐原正文氏」を推薦する。



佐原正文氏

◆副町長の選任

・副町長である「松中一夫氏」の任期が本年10月16日で満了となるため、引き続き「松中一夫氏」を選任する。



松中一夫氏

認定

平成30年度上関町一般会計および特別会計歳入歳出決算の認定

監査報告



井原 久治
監査委員

一般会計の歳入決算額は、43億9952万8804円で、歳出決算額は、42億3897万3991円で、残額1億6055万4813円を繰り越した。

特別会計（11会計）の歳入決算額は、32億1469万2014円で、歳出決算額は、31億3030万1111円で、残額8439万1903円を繰り越した。

厳しい財政状況の中、限られた財源の有効活用を図り、経費節減に努め、住民サービスの低下や負担増とならないよう、大

変苦勞をした財政運営であったと思われる。今後新庁舎建設、医療問題など、解決していかねければならないことが山積しているが、総合計画に基づいた事業展開をするとともに、なお一層の効率化を図り健全な財政運営をお願いする。

報告

◆第57期上関航運有限公司の事業計画

◆第8期一般財団法人なごみの経営状況

◆平成30年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率



建築中の航路待合所（室津）

※1 健全化判断比率

比率名	平成30年度	早期健全化基準
実質赤字比率	—%	15.0%
連結実質赤字比率	—%	20.0%
実質公債費比率	9.8%	25.0%
将来負担比率	—%	350.0%

実質公債費比率の9.8%は早期健全化基準の25%を大きく下回っているため、町の財政は健全であると判断できる。

※1 財政の早期健全化や再生の必要を判断するための財政指標

※2
資金不足比率

公営企業会計名	平成30年度	経営健全化基準
上関町簡易水道事業特別会計	—%	20.0%
上関町農業集落排水事業特別会計	—%	20.0%
上関町漁業集落排水事業特別会計	—%	20.0%
上関町航運事業特別会計	—%	20.0%
上関町風力発電事業特別会計	—%	20.0%

※2 公営企業の資金不足を、事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すもの。

質疑

応答

山谷良数議員

町営墓苑の管理運営状況を今後どういった方向で考えるのか。

吉田生活環境課長

町営墓地の使用許可を出して5年以内に墓を建立する条件で、現在まで13件の許可を出している。その内8件ほど墓を建立している。管理については、使用者個人で管理することにしていく。水道についても使用者が加入して使用することとなる。周辺の垣根などは町で管理している。



山戸孝議員

祝島診療所の医師委託料の増額の内訳は。

岡崎高齢者保健福祉センター所長

祝島診療所の土曜日が隔週の診療となっているが、その隙間の月2回のところに臨時の先生が手配できたため計上した。

山戸孝議員

遠方から来られるとのことだがこの金額で十分か。現地に來るなどして体力的時間的に無理がないか確認しているか。

岡崎高齢者保健福祉センター所長

今回来ていただける先生は県のへき地支援医療センターからの紹介。去年まで山口県に厚労省からの出向で来られており、今は厚労省に戻られている。地域貢献という国の方針もあり、公務員なので予算の範囲内。年齢は44歳で、事前に祝島診療所に視察に来ており、本人も納得されて来られるので十分対応で

きるのではないか。

山戸孝議員

「鳩子の湯」「道の駅上関海峡」には指定管理料としてそれぞれ一千万円ずつを町から毎年支出している。最終的には自立してもらわないといけないが、町としてどう考えているか。

松村産業観光課長

将来は独立採算になるような事あるごとをお願いはしている。指定管理は三年に一回の見直しをし、一年ごとの協定書も結んでいて、その際にも伝えていくが、今後もしっかり伝えていく。



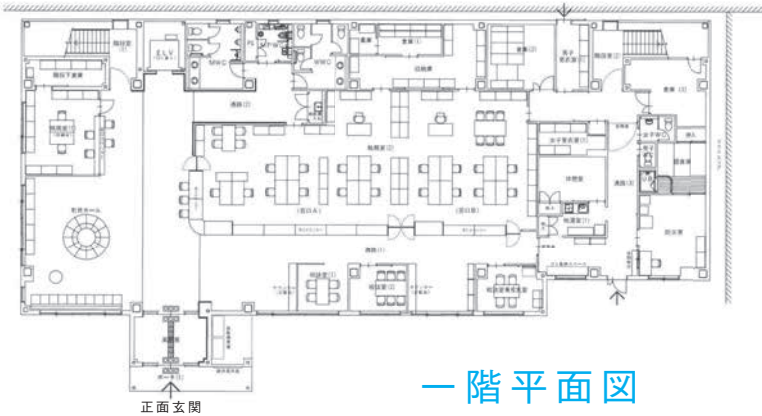
レストランをリニューアルした鳩子の湯

新庁舎の概要

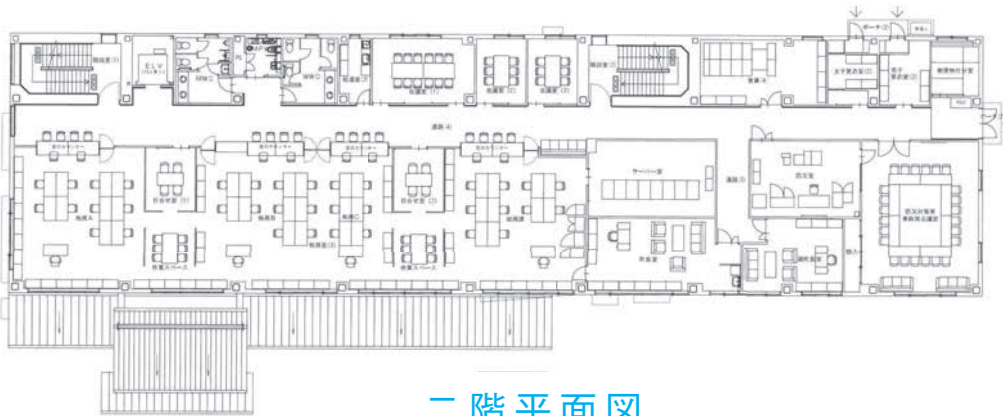
令和3年3月完成予定



立面図



一階平面図



二階平面図



三階平面図

新庁舎は鉄骨3階建てで、全てのフロアはバリアフリーとなっており、一階の受付で手続きができるように配置されています。

町政のここが聞きたい

一般質問

9月定例議会では4名の議員が
6件の質問をしました。



山根 善夫 議員

問 人口減少への対策は

答 人口減少をこのままにできない

質問

本町にとって大きな課題のひとつが人口減少の問題だと考える。少子高齢化によるマンパワー不足の問題は過疎地域共通の課題であるが、離島地域ではさらに大きい問題だと考える。農業、漁業の後継者問題はもちろん、住民生活を支える上で欠かせないインフラの維持、小さな集落を維持してきた相互扶助のご近所関係など手薄になっていく。これからも地域が存続していくために切実な問題だ。この人口減少に対する対策を伺う。

町長答弁

少子高齢化によるマンパワー不足の問題は、コミュニティの意義、さらには生活にも支障をきたす切実な問題。人口減少をこのまま見過ごすことはできない。住民の暮らしを守るためにまず財政力の強化に取り組まなければならない。町民一人一人が上関町に誇りを持ち、すばらしい町と胸を張って言えるよう、そんな故郷を作る必要がある。そうすることで人口の増加にもつながると思う。



祭りの準備をするみなさん



清水 敏保 議員

問 住みよい上関にするために

答 無医地区にしないために

質問

本町の財政状況は厳しく、人口減少、高齢化の進行、一次産業の衰退、医師不足などの問題に直面している。町民の暮らしを守っていくことは容易ではないが、町長を引き受けた以上は、住みよい上関を目指して欲しい。今年度の重点項目として、定住対策・住民サービスの向上・産業観光振興の三点を掲げその事業に取り組まれている。しかし、最近では医療問題も重要課題となっているが、現状と対策について問う。

町長答弁

第一次診療体制は町内で維持したいと思うが近い将来、無医地区になるのではと予想される。無医地区にしないために今から医療体制を準備する必要があると判断した。そのためには、まず医師の確保が必要不可欠だ。それと同時に中核的な診療所の整備をして、その中核的な診療所とへき地診療所や町の開業医との連携をどのようにしていくのか。また診療所の体制をどう整えていくか、通院の手段についてなど検討していく必要がある。



八島診療所

問 祝島小学校の再開校に向けた準備について

答 教育委員会の合議によって進めたい

質問

前議会の再開校の質問に対し、「教育委員会の会議でさまざまな角度から多様な意見をもとに話し合いが進んでいる。子供の側に立って今後も引き続き協議を進めていきたい」と答弁されたが、どのような対策を考えているのか。また、中学校技術室を校舎として活用する場合についてはどのようなようになったのか問う。今後、保護者や関係者との話し合いを、密にして、スピード感を持って対応して頂きたいが教育長の考えは。

教育長答弁

小学校の場合、児童が徒歩で通えるように学校があるのが理想だが時代の変遷に伴って過疎化・少子化・交通の利便化、また郷土・地域を広く捉え、児童生徒の社会性を育成していくといった観点からも全国的にさまざまな施策が展開されている。子供の発達段階や社会性の育成また財政上の問題もあり、さまざまな可能性や方法などについて教育委員会合議などの合議によってよりよい方向に進めていけるように取り組むたいと考える。



祝島中学校の技術室



山戸 孝 議員

問 町の医療体制をどう守るか

答 まずは医師の確保が最優先

質問

医療問題は高齢化が進む本町において喫緊の課題である。町を無医地区にしないために、民間の新たな診療所開設をはたらかけるのか、町で診療所を運営するのか、へき地診療も含め町の医療体制をどう守っていくか、その方針を町民に示す必要があると考える。また祝島においては、現在島で診察をしていただいている医師への感謝とともに、今なお常勤の医師を切望する声が大変多い。祝島診療所の常勤医師の募集はできないか。

町長答弁

まずは町に常駐していただける医師の確保が最優先。民間では難しいだろうから、行政が医師の確保をしていく。医師が決まれば中核の診療所をつくって、今のへき地診療とどう絡めていくか地域と協議を行いながら、医師を中心に医療体制を整備していきたい。祝島診療所については、離島なので常駐する形が理想だが、現時点では祝島診療所も含めた町全体の医療体制をどうするのかを総合的に考えていかなければならない。



祝島診療所

問 タウンミーティングで民意のくみ上げを

答 提案があれば積極的に対応する

質問

町長選挙が二回連続の無投票となり、原発の賛否のみならず、町が抱える問題点や町の将来についての議論が十分に深まることなかったように感じる。民意をよりしっかりとくみ上げ、同時に町長自身の考えを町民に直接伝える機会をつくるためにタウンミーティングの開催を検討しては。また地域ごとの懇談会だけでなく、若い世代や、子育て中の母親とのタウンミーティングなどもあってもよいと考えるが、町長の考えは。

町長答弁

町民に行政を理解してもらうため懇談会や対話はとても重要だと思っている。これまで地区懇談会の開催については自治会長の方にお諮りさせていただき判断してきた。今のところ各自治会長の意見を尊重して開催していないのが実情。これからの町を支えていくべき世代から話し合いたいという提案があれば、積極的に話をしたい。議員には行政と住民の架け橋として、ぜひ間を取り持ち、その場を作ることをお願いしたい。



『町民の本音』にしっかり耳を傾けた町政を

は。町内各地の診療所の現状も踏まえて、具体的な今後の医療体制は。

機関は必要と考える。

軒となった病院も現在では残り1軒となつている。このままでは将来無医地区になる可能性がある。現在でも病院などに行くために、高齢者などには福祉優待バス乗車証による助成はしているが、町内に一次的な対応が出来る医療機関は必要と考える。

質問

答 全力を挙げて取り組む

問 今後の町の地域医療について



海下 竜一郎 議員

町長答弁

医師のいない町にはしたくないという強い思いがある。無医地区になつてからでは遅いので、早急に対応しなければならぬ。現在医師の確保に向けて全力で取り組んでいる。新たな町立の診療所も整備していきたいという思いもある。診療所を核として、へき地診療所や開業医とのかわりなど町全体の診療所の体制や各診療所への通院手段も考えていく。一次医療の確保は是が非でもしなければならぬので、全力を挙げて取り組んでいく。



白井田診療所

研修報告

町村議会広報クリニックス
議会広報広聴調査特別委員会

委員長 岩木和美

7月10日に東京都千代田区の全国町村議員会館で行われた町村議会広報研修会に広報委員が参加しました。

グラフィックデザイナーの長岡光弘氏から「議会広報紙クリニックス視点」と題して講義を受けました。

- ・議会広報紙としての編集視点
 - ・情報把握ができる紙面構成
 - ・住民に情報が伝わる編集
 - ・住民に情報が伝わる紙面表現について話されました。
- 紙面の情報を住民に容易に伝えるには、一文が長くなく情報の理解を高めた読みやすい文章にすること、目が疲れず読んでもらえるような工夫をすることなどが大切だと話され、とても勉強になりました。



後半では、11町村の広報紙のクリニックスがありました。他の町村の広報紙からも、レイアウト、写真の撮り方など参考になることがたくさんありました。

私たちの委員会でも昨年3月の議会だよりから文字を大きくし、1ページを5段構成から4段構成にしたところ、住民から「字が大きくなってよみやすくなったね」との声を聞き嬉しく思っているところです。

今回の研修で学んだ事を活かして、これからも親しみやすく読んでいただける「議会だより」を作成していきたいと思えます。



産業厚生常任委員会
委員長 清水敏保

静岡県河津町

河津桜発祥の地と知られる静岡県河津町は、人口約7200人で相模湾に面し、温泉も豊富

に吹き出し自然環境を観光資源に活用している。河津桜は、昭和50年に「町の木」に制定し、苗木の増殖や植栽を行い、現在は約8000本の河津桜が町内に美しい花を咲かせている。平成3年に、第1回桜まつりが開催され3000人程度の来場者がありその後、精力的に植樹を続け、観光客に向けた土産品など

を提供する小売店や飲食店も増え、祭りの規模を拡大。開催期間は毎年2月10日から一か月間で、今年は29回目で90万人の来場者があり、町内の経済波及効果は27億円。しかし、来場者が増えることにより交通渋滞の苦情をはじめ駐車場やトイレ不足などの問題が発生。それに対して公共施設や空き地を利用し、駐車場については有料としている。また、出店者には、露天営業管理条例などを制定して対応

している。今回の視察で、本町の観光産業に参考になり、町づくりをやっていくには、町を中心に町民全体で協働する重要さを改めて実感した。



る上でとても参考になった。



総務文教常任委員会
委員長 右田千賀子

静岡県松崎町

西伊豆半島の山や海があり、そして日本一の富士山が見える賀茂郡松崎町に行つて来ました。面積85・19km²、人口6594人、世帯数2972世帯、議

員定数8名。町は少子高齢化人口減少が加速し地域コミュニティの崩壊が危惧されているため移住定住促進事業に力を入れている。予算は125万で、さつぱり総合研究所に委託し、移住相談、空き家情報バンク、移住パンフレット作成などに力を入れていく。また、町の魅力を紹介し、移住体験ツアーを実施し、移住相談空き家情報バンクを制度

化した。賀茂地域一市五町でUターンを意識して、「賀茂の子づくり」の事業を実施し、小中高生に地域の魅力を再発見してもらい将来的に首都圏に出て行った人に地元に戻って来る事を目的とする。修学旅行体験ツアーがあり、なまこ壁の修理が体験できる。古民家を憩いの場所に、空き家をゲストハウスに使っている。松崎町を視察して、上関町も定住促進や空き家対策、古民家を利用しての町づくりを考え



議 会 日 誌

(自 令和元年6月11日 ～ 至 令和元年9月10日)

月	日	件 名	開催場所
6	11	第2回定例会本会議	議場
	14	産業厚生常任委員会	会議室
	14	総務文教常任委員会	会議室
	18	第2回定例会本会議	議場
	19	第2回定例会本会議	議場
	19	議会運営委員会	会議室
	25 ～ 27	両常任委員会委員行政視察研修	静岡県河津町・静岡県松崎町
	28	例月出納検査	議員控室
	28	出納室・議会事務局定期監査	議員控室
7	1	上小・上中・総務課定期監査	上関小中・議員控室
	2	山口県町議会議長会定例会	山口市
	2	山口県離島振興市町議会議長会臨時会	山口市
	2	熊毛郡町議会議長会臨時会	山口市
	2	県東部高速交通体系整備促進協議会総会	柳井市
	3	議会広報委員会	議員控室
	3	柳井地区広域消防組合議会臨時会	柳井市
	3	産業観光課定期監査	分庁舎
	4	高齢者保健福祉センター定期監査	高齢者保健福祉センター
	4	保健福祉課定期監査	保健センター
	8	社会を明るくする運動大会	総合文化センター
	9	土木建築・生活環境課定期監査	分庁舎
	9	議会広報委員会	議員控室
	10	町村議会広報クリニック	東京都

月	日	件 名	開催場所
7	12	県町議会一期議員研修会	山口市
	16	総合企画課定期監査	議員控室
	16	教育委員会定期監査	福祉センター
	17	議会広報委員会	議員控室
	18	決算審査事務打合せ	議員控室
	19	議会広報委員会	議員控室
	22	県東部高速交通体系整備促進協議会知事・議長要望	山口市
	25	柳井地区広域市町議会議員研修会	柳井市
	26	例月出納検査	議員控室
8	1	熊毛郡広報連絡協議会総会	田布施町
	7	定期監査事務打合せ	議員控室
	8	熊毛郡町議会議長会定例会	平生町
	9	決算審査事務打合せ	議員控室
	19	決算審査事務打合せ	議員控室
	21	財政健全化審査	議員控室
	21	柳井地域広域水道企業団議会臨時会	柳井市
	21 ・ 22	県町議会議長会研修視察	山梨県昭和町・山梨県富士川町
	23	県町議会議長会研修	東京都
	26	例月出納検査	議員控室
	26	決算審査・定期監査報告	町長室
	26	中学生海外派遣帰国報告会	総合文化センター
	27	山口県町議会実務研修会	山口市
	28	人権学習講座	総合文化センター
9	5	熊毛郡広報連絡協議会(臨時会)	田布施町
	10	議会運営委員会	会議室

柳井地区広域市町議会 議員研修会

7月25日、柳井市で「議会におけるタブレット型端末の活用について」を演題として、東京インタープレイ(株)代表取締役 米田英輝氏を講師に招き研修しました。議員活動で「すべての資料が入ったタブレット」を活用することで議会図書の拡張、ペーパーレス化による副次効果などがあると話されました。

その後、実際にタブレットを使っての研修があり、とても良い勉強になりました。



山口県議会実務研修会

8月27日、山口市で「わかりやすい条例の見方・作り方」を演題として、議会事務局実務研究会議会アドバイザーで元衆議院法制局参事の吉田利宏氏を講師に招き研修しました。政策の条例化を行なうには、住民の声を集めること（どんな問題があるのか・どんなことが起きているのか）にじっくり耳を傾ける重要性があるなど条例の作成について、くわしく、ていねいに話され、これからの議員活動の参考になりました。



熊毛郡議会広報 連絡協議会定期総会

8月1日、田布施町役場で熊毛郡3町の広報正・副委員長・事務局長が「平成30年度事業報告・決算」「令和元年度事業計画・予算」について協議した後、情報交換を行いました。

今年の研修は、11月に広島県世羅町において「議会広報の編集体制・方針・方法」について研修することにしました。

編集後記

暑さ寒さも彼岸までと、昔から言われておりますが、まだまだ暑い日が続いております。台風も毎週のように、日本に近づいております。被害に遭われた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧がなされることをお祈り申し上げます。

当町も台風17号では、多くの世帯が停電いたしました。幸い人的被害などもなく、安堵しております。改めて災害の備えについて、家庭で話し合ってみることも大事なことと思います。

お願い

◆令和2年度理科教育設備整備費等補助金予算計上について
のお願い

公益社団法人

日本理科教育振興協会

会長 大久保 昇

議会広報広聴調査特別委員会

委員長 岩木 和美
副委員長 海下竜一郎
委員 井原 久治
〃 右田千賀子
〃 山戸 孝

次回定例会の初日は
12月3日(火)9時の予定です。

発行責任者／議会議長 西 哲夫

〒742-1402 山口県熊毛郡上関町大字長島 503

TEL 0820-62-0364 FAX 0820-62-0783

編集／議会広報広聴調査特別委員会

印刷所／中村印刷株式会社